

2) 禁煙支援

(1) 世界禁煙デーのイベント

ピアサポーターが中心となって行った世界禁煙デーと禁煙週間の活動を報告する。4月から敷地内禁煙になった年での活動をのべ64人の力でやり遂げた。

- 5月9日・14日 禁煙デー禁煙週間の取組について話し合い
- 5月21日～29日 たばこの着ぐるみ作成 ポスターとチラシの作成
- 5月30日 立て看板作成と中央・農学部・工学部の各食堂前設置
- 6月2日～6日 吸殻ひろい、大学周辺のごみ拾い



禁煙デー実施計画の話し合い



ポスター



着ぐるみと一緒にチラシ配り



食堂前の立て看板



大学周囲のごみ拾い



センターの啓蒙ポスター掲示

(2) 禁煙支援数

2006年6月から禁煙支援者の1年後の喫煙の有無を確認してそれを1年禁煙率とした。

年 度	学 生		職 員		合計	1年禁煙率
	男	女	男	女		
2008年度	28	3	6	1	38	6 / 21 28.6%

2010 / 3 / 3 現在

禁煙デーと禁煙週間の企画と活動を一緒にしたピアサポートの皆さんの活動の報告を紹介する。

世界禁煙デーを振り返って

文責 工藤 圭

2008年度の世界禁煙デーのイベントは、2008年4月からの岩手大学敷地内全面禁煙や安全衛生管理室の定期的なタバコ拾いなど、大学敷地内の急激な喫煙環境の変化の中で行われた。また、イベントではこれまでの吸殻拾いやピラ配りに加えて、着ぐるみを使ったアピールなど、これまでにない取り組みを行った。そのため、初めてのことばかりで苦慮した点や反省点などが出来たと思われる。

今回の報告書では、吸殻が落ちていた分布の結果について示す。

タバコの分布の割合について

備考

- ・2008年6月2日～6月6日に行われた吸殻拾いで、拾った箇所を人文社会科学部付近、農学部付近、工学部付近、教育学部付近、サークル使用施設付近、寮付近、学生食堂・大学図書館・学生センターそれぞれの建物付近、それ以外のその他の8つに分類する。
- ・「その他」については、学生や教職員よりも外部の人が吸って捨てている可能性が大きいと判断される場所を指す。具体的には大学正門、正門から農学部の門までの道路、46号線前の門、国際交流会館前の門、地域共同研究センター付近の5箇所である。
- ・計算方法は、上記の8つの場所ごとに拾った本数の報告をもとに、エクセルで場所ごとに割合を算出した。
- ・割合の値は小数第一位を四捨五入したため、必ずしも100パーセントにならない。
- ・「敷地外」とは岩手大学の門付近のことを、「敷地内」とは岩手大学の敷地内のことを指す。なお、ここで敷地外と敷地内のグラフを示したのは、全面禁煙によって門の前でタバコを吸い、捨てる人が増えている現状から、ここに実態を記した。

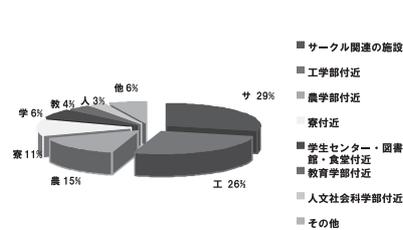


図1 施設ごとの割合

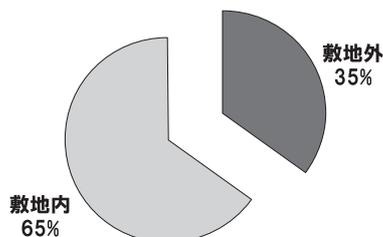


図2 場所ごとの割合

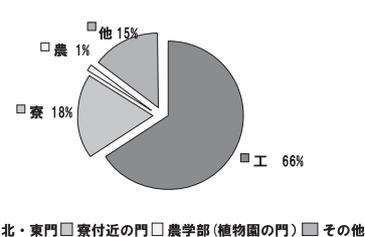


図3 門付近に落ちていたタバコの割合

考察・今後の課題

- ・施設ごとにタバコを拾った本数を見ると、サークル関連の施設や工学部の敷地内だけで半数強を占めている。また、門付近に落ちていたタバコの本数を見ると工学部が3分の2を示している。また、サークル関連の施設には、撤去が必要な灰皿などが設置されている場所もあった。今後はこれらに対して厳しく対応するとともに、門付近で吸っている人に対して捨てさせない工夫をしていくこと、そのような人に対していかに禁煙を勧めていくことが課題となりそうだ。
- ・最近、禁煙箇所が増えたことによって、公園に集まる愛煙家が増えたこと（読売新聞2008年6月2日付）やタバコ税の引き上げの論議が進められていることが報道されている。こうしたことも鑑みながら、今後の禁煙活動を考えていきたい。